

編 集 後 記

2021年度から「臨床神経学」の第12期臨床神経学編集委員を仰せつかった国立長寿医療研究センターに所属する櫻井圭太と申します。私は画像診断医 (Diagnostic Radiologist) であり、特に中枢神経領域を専門としています。実は研修医時代に脳神経内科を進路の候補に考えたことがありました。しかしながら、「他の科が向いている」との助言をいただき、紆余曲折を経て、放射線科の道を選択したという経緯があります。現在は日常臨床の画像診断を行いながら、定期的に学会発表や英文論文の執筆、査読を行っています。

皆様も御存知の通り、「臨床神経学」は抄録や figure legend など一部を除き、和文での投稿が中心ですが、PubMedに掲載される非常に伝統ある機関誌です。「臨床神経学」は若手の登竜門としての一面もあると伺っていますが、記載されている病歴、身体所見、画像検査、考察などのレベルは総じて高く、伝統にふさわしい内容と感じています。若い先生方の中には「臨床神経学」への投稿を含めた論文作成を億劫に感じられることもあるのではないのでしょうか。確かに、日常臨床で多忙を極める中で文献を検索しながら、考察を行い、文章を執筆することは容易ではありません。実際、私も経験が乏しい頃は上司から論文作

成の指示が入る度に（少し誇張しすぎかもしれませんが）暗澹たる気持ちになっていました。しかしながら、一つの症例から得られた小さな「気づき」に文献検索や考察を組み合わせた論理的な思考法を構築し、それを指導医や査読者の先生方から確認していただき、己を磨く機会は日常臨床では得難いものです。指導医の先生方から熱心な指導を受けることも将来に自分がその立場になった際の貴重な経験となることは間違いありません。加えて、上梓した貴重な症例を全国の他の医師と共有することが可能となります。実際に、画像診断の講演等でも「臨床神経学」の引用を拝見することがあるのはその証左と言えるのではないのでしょうか。

症例報告を取り扱う journal が減少しつつある現状、「臨床神経学」は和文での投稿が可能かつ PubMedに掲載され、世界に情報を発信する機会が得られる非常に貴重な platform です。この伝統ある「臨床神経学」を盛り上げていくために、多くの先生方からのさらなる御投稿をお待ちしています。

(櫻井 圭太)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子		
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬		
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利	櫻井 圭太	柴田 護
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫	中嶋 秀人	新野 正明

「臨床神経学」	第62巻 第4号	2022年4月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		戸 田 達 史
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>